

定例3月議会がはじまります **一般質問**

開会初日、3月8日（月）午前10時から、

今定例会では、4人の議員が町民の代表として、これを問います。

近藤隆二郎 議員

町長！

看護師・保健師等の専門職人材確保と訪問看護サービスの必要性について



本町は高齢化率が県下トップである。医療資源が限定的な本町においては、看護師や保健師といった専門職の存在はとても重要である。にもかかわらず、少人数による過酷な労働環境等にさらされている。このままでは、住み慣れた自宅で最期を迎えたいという切なる希望はもとより、町内施設で亡くなりたいという願いさえも叶えられなくなる恐れがある。

- (1) 看護師や保健師の早急な確保についてはどのように考えているか。単に募集情報を掲載するだけでは効果が無く、離島にまで来てもらう条件整備（住居、ファミリーサポート等）が必要ではないか。「ひとり親地方移住支援ネットワーク会議」自治体などを参考に、積極的に受入条件を整えるべきではないか。
- (2) 複数の仕事を組み合わせて雇用できる「特定地域づくり事業協同組合」を本町でも早急に立ち上げるべきではないか。
- (3) とくに看護師の働き方についてどのように考えているか。過去の離職の理由を示して欲しい。また、現場の意見を聞いて柔軟に迅速に対応しているかどうか。
- (4) 「小値賀町医療保健技術者等奨学資金」の現在までの実績と評価・課題を示して欲しい。
- (5) 現在、本町では在宅看取りをおこなうことは難しくなっている。誰もが住み慣れた自宅で最期を迎えたいとは思っており、また入所や入院を圧迫しないためにも訪問看護サービスは必要である。また、障がい者支援にも同サービスは必要であり、「死にがい」には大変重要なサービスである。県内では時津町と本町だけ訪問看護サービスが無い。町として実現に取り組むことはないのか。長野県川上村は、「村は屋根のない病院ー保健・福祉・医療・介護の一体化ー元化ー」というヘルシーパーク構想を進めている。今こそ小値賀モデルをつくりあげるべきではないか。
- (6) 診療所が移転した後の健康管理センター二階の利用方法について説明いただきたい。地域包括ケアシステムや訪問看護ステーションが入るのはどうか。



—裏面もご覧ください—

宮崎良保 議員

町長！、教育長！

歴史民俗資料館の改修について



築250年になる小田家の住宅を昭和64年に小値賀町へ寄贈され、一部を増設し、小値賀町歴史民俗資料館として開設された。

館内には、小値賀の一時代を築いてきた小田家の歩んできた道が紹介されているほか、小田家の邸宅や家具等から在りし日の暮らしに触れる事が出来る貴重な文化財である。

この歴史民俗資料館も寄贈されてから32年経過し、施設の老朽化が目立ち、安心して館内を案内する状況ではない。

そと周りの石垣の膨らみや小田家の木造建築特有の梁の落ち込み、また廊下の不安定など施設の老朽化が目立っており、安心安全な施設の運用を継続するためには一部の修復のみでなく、施設全体の修復計画が必要と考えるが、町長の考えを伺う。

他市町との連携について 町長！

新型コロナウイルス対策に大変苦勞されている中で、各市町の連携にも少しブレーキがかかっている状況のようだが、コロナ問題が限りなく続くわけではなく、コロナ後の対策を講じる必要があると考える。

そこで、小値賀町も佐世保市、新上五島町とのコロナ後の連携事業を構築しなおす必要があると思うので、次の事項について伺う。

- (1) 「海風の国佐世保小値賀観光圏」として国の認定も受け、多くの共同事業を実施しているが、最近の開催状況はどうなっているか伺う。
- (2) 小値賀のターミナルの改修は間もなく終わるが、佐世保ターミナルのボーディングブリッジ、高速船棧橋等の改修計画は、いつになりそうか伺う。
- (3) 新上五島町とは五島列島おもてなし協議会を立ち上げ、観光ルートの開拓等を一緒に事業推進に努めてきたと思うが、今後やめるのか。それとも、継続して行うのかどうか伺う。
- (4) 長崎からの上五島経由で小値賀に観光客をとの計画があり、現在は中止されていると思うが、検証のため運航期間、輸送人員等の事業実績と総事業費の中の小値賀町の経費負担の内訳、真水の支出額等を伺うと共に将来運航復活させる考えはないか。
- (5) 長崎新聞には、五島産業汽船が平戸との間で試験的に不定期の高速船を走らせたという記事が載っていた。小値賀町も平戸市間をチャーター船による観光ルートの開拓を計画したことがあったと記憶しているが、その後は？再検討の考えはないか伺う。
- (6) 他の市町の協力が必要なゴミ処理場への搬出について、現在、新上五島町へ町外搬送の契約が進んでいるが、内容において条件付きの受入れと聞いている。搬出条件内容においては、小値賀町が抱えている廃材や漂着ゴミなど、ゴミ焼却問題を解決するのは困難と思われるが、町長の考えを伺う。



今田光弘 議員

町長！

新型コロナウイルス感染症の対応について

町も町民もそれぞれが苦勞しながら困難な状況に立ち向かっており、幸いなことに現時点での感染者は報告されていないが、以下の4点について町長の考えを伺う。

- PCR検査を希望者全員に無料で行う考えはないか。
- 医療関係者、福祉関係者などを対象に、効果的と言われる「週に一度の定期的なPCR検査」を行う考えはないか。
- ワクチン接種のスケジュールは。
- 早い時期に「ワクチン全島一斉接種」をする考えはないか。



町長！

可燃ごみの島外搬出とごみの減量化について

可燃ごみの島外搬出とごみの減量化について、大きく3つの項目に分けて町長に伺う。

- (1) ごみ焼却炉はダイオキシンの問題から現在稼働を休止している。
 - 再稼働の見通しは。
 - 最終処分場での可燃ごみの仮置きキャパシティは。
 - 新上五島への搬出を場合によっては前倒しすることも考えて準備しているか。
- (2) 来年4月から、収集した可燃ごみを大型の収集車に積み替え、フェリー太古を利用して新上五島に運ぶ予定になっている。
 - 小値賀島内の大型収集車の運行は町直営を考えているようだが、現実的に可能なのか。
 - 町外搬出に伴って「有料指定袋制」になるとのこと。現在のごみ処理手数料は廃止されるのか。
 - 指定袋は、新上五島では大中小の3種類で10枚入りそれぞれ400円、300円、200円。本町でも同じような値段を考えているのか。
- (3) ごみの島外搬出は、施設整備や広域処理に伴う財政負担が大きいものの、ごみの量を減らせば負担は軽くなる。
 - 大型の生ごみ処理器(1か所当たり工事費込みで約212万円)を今年度までに8か所、さらに希望している地区にも順次設置していくと聞いているが、むしろコンポストを各家庭に無料で配った方が、利用やすく、費用対効果も高いのではないか。
 - 家庭用電気式生ごみ処理機についても、購入者の負担が軽くなるよう補助内容を見直しではどうか。
 - 今は可燃ごみとされている紙くずを始め、資源ごみの回収にもっと力をいれようべきではないか。
 - 不用品の無料交換所を作ってはどうか。



松屋治郎 議員

町長！

コロナ禍における社会構造変化への対応また施策について

この度の新型コロナウイルス感染症の世界的大流行は人類が自然との共生に反し、自然を無視し、また破壊し続け、人為的な社会を作ってきたことによって地球温暖化が進み、様々な大規模災害が発生していることと同様、自然が人類に対し警鐘を鳴らしていると私は考えている。様な施策について、主にまち・ひと・しごとの観点から町長に伺う。

これまで経済優先で地方から大都市へと地方の担い手となる若者を中心に多くの人々を吸収し続けてきた大都市ほど、コロナの猛威を受ける結果となり、これまでの大都市集中型社会から、地方分散型社会へと大きく変化し始め、まち・ひと・しごと(地方創生)のあり方も大きく変わろうとしている。

このような社会構造の変化を好機と捉え、災い転じて福となる様な施策について、主にまち・ひと・しごとの観点から町長に伺う。



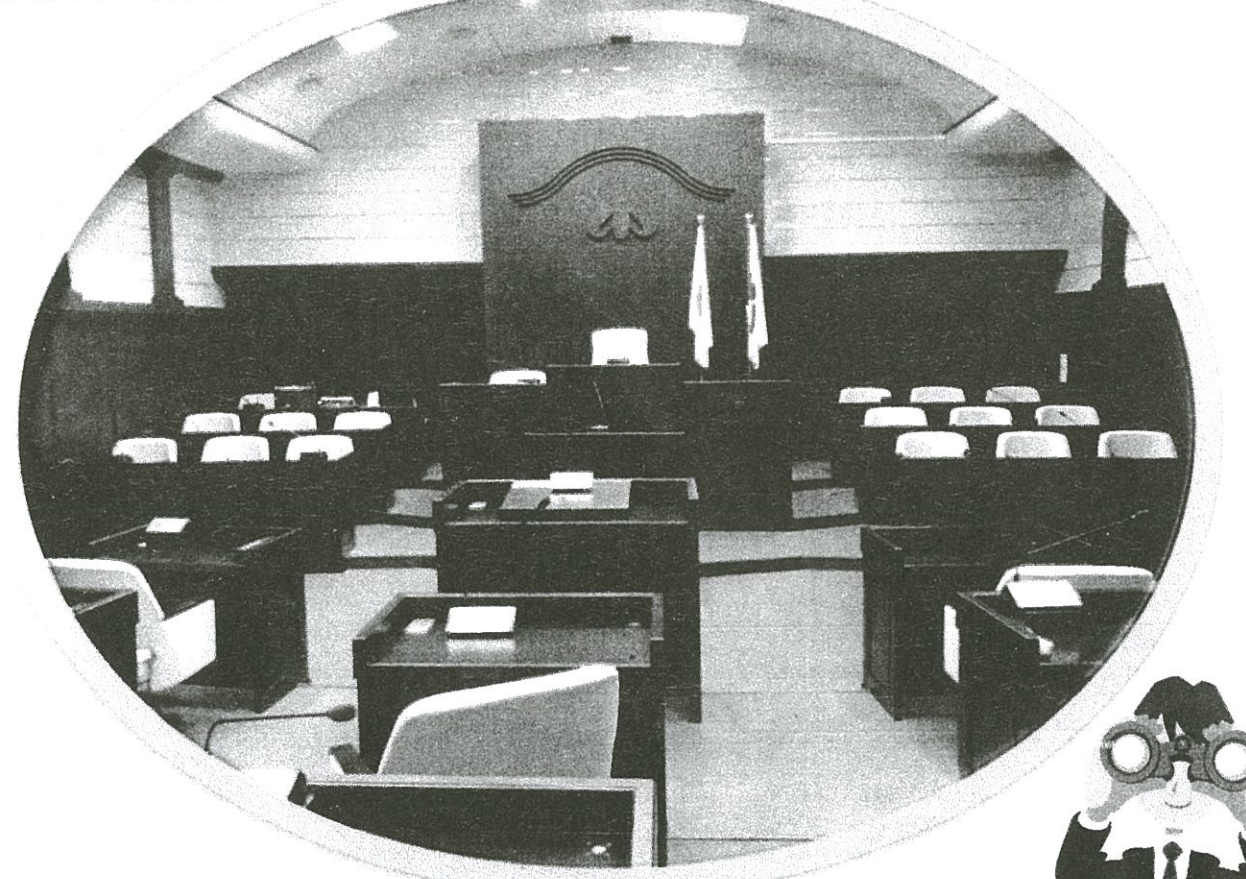
質問の順番は、

- ①近藤隆二郎議員
- ②宮崎良保議員
- ③松屋治郎議員
- ④今田光弘議員の順です。

※ 傍聴者のみなさんが、一般質問に対する意見を発言したり、わからないことを聞くことができる模擬公聴会も行います。

※ 現在も、新型コロナ感染予防のため、議場の傍聴席を減らしていますが、今議会から、その対策として3階第1会議室を、別室のモニター室として準備いたしました。大画面で、画像も鮮明です。どうぞお気軽にお出かけください。

※ 傍聴手続き(役場3階 議会事務局)は、簡単です。



【お問い合わせ：議会事務局 56-3111】